

Circle Story of Meiji University

明治大学グリークラブ

グリークラブ消滅の危機!?

いまお読みになられている皆様は明治大学グリークラブに対してどのような印象をお持ちでしょうか? グリークラブは明治大学唯一の男声合唱サークルで、約60年の歴史のある大学随一の音楽団体です。もしかしたら「質実剛健」「体育会系音楽サークル」というイメージとともに、100人規模の大人数で圧倒的な音量や活動実績を誇る団体だと思われる方も多いかもしれません。しかし、それは昔の姿です。「大学向声合唱冬の時代」ともいわれ、新入部員の獲得に苦戦し、上級生は就活を理由に退団し、10年ほど前には十数名まで人数が激減してしまいました。全盛期の5分の1以下まで人数が減ったことになりました。理由はさまざまですが、人数が減ると音楽面での迫力や声のまとまりがなくなってしまう。さらに、会計規模もどんどん縮小し、対外的な活動にも影響が出てくるほどだったそうです。活動規模が小さくなると、グリーの魅力が減って新入生は魅力を感じなくなる。そして入団者は減ってゆく……といった負のスパイラルに陥ったのが約10年前のグリークラブでした。

**現役・OBともに
グリークラブ再建の鍵を模索**

「このままでは人数が減り続けてグリークラブが消滅する」、現役だけではなくOB会も、その悲しい結末への不安を感じていました。グリークラブの抱えている問題は、単に人数が減っていることだけでなく、音楽技術面、運営マネジメント面、会計面、音楽家の先生とのやり取りなど、さまざまな要素が複雑に絡み合っていました。人数減少期には現役とOBとが顔を合わせて話す機会もなくなっており、学生はいわゆる「大人の知恵」を参考にすることができない状況になっていました。この状況下で「どうかグリークラブの抱える課題を解決して人数を増やしたい」という共通認識が現役とOB両者に生まれていきました。OB会でも「俺たちの時代に比べて現役は人数が少ない! 現役はヘタだ!」と文句ばかりを言うのではなく、OBである我々が現役支援のためにできることを真



明治大学グリークラブ

男声合唱による「大迫力で身震いがするようなサウンド」。グリークラブは人数の激減により、その醍醐味を失った時期がありました。その危機を乗り越え復活への光が見えてきた陰には、現役とOB会との二人三脚での努力の軌跡があります。今回は2017年度グリークラブOB担当マネージャーとして、全国700人超のツワモノOBと向き合ってきた私が、新しいOB会と現役の関係性のひとつの成功例をご紹介します。

グリークラブホームページ <http://meiji-gee.net/>

Twitter @meiji_gee

依頼演奏担当(岡本) meiguri.iraie@sou@gmail.com

法学部 4年 平川 宗

明大
サークル
物語

Circle Story of
Meiji University



団員数が減り20名弱で活動していた頃の様子



80~100名の団員がいた「全盛期」

剣に模索しよう」と、日々侃々諤々議論をしていたそうです。そして、「俺たちの時代、自慢は一切禁止」「七百余名が横一線になって現役を支援しよう」がOB会のモットーになり、それが現在も隔月で行われている『代議員会での対面ディスカッション』の実現につながっているのです。

月一回、現役の相談事に 本気でOBが向き合う場所

グリークラブのOB会には代議員会とあって、OB会の役員と各年代の代表者である代議員が集まり、定期的にOB会の活動方針を議論する会議が存在していました。約7年前、その代議員会を月一回の定例行事にして、現役が抱える諸問題をOBに相談するための場所としてリニューアルしました。ここでは現役学生とOBはあくまでフラット。現役が抱える問題や悩みを素直に打ち明け、OBは社会経験を活かして的確な対処法をアドバイスする。学生だけではどうしてもミスの出やすい会計管理の方法や、組織のマネージャーとしての動き方、過去の経験者だからこそわかる新入生勧誘のイロハ、演奏会のチケットやチラシなど出版

物作成に関するサポートなど、「何でも社会人に相談できる場所」が誕生したのです。大きなテーマから細かいテーマまで、現役・OBの知恵をフル稼働して諸課題を解決する体制が整っていききました。

その会議の後は懇親会へ。もちろん費用は全てOB持ち。フォーマルな代議員会では話せない、好きな歌の話や歌唱論談義、就職活動に関する相談や、中には歴戦の猛者に恋愛相談をする者も。とにかく毎月一回、学生と社会人が膝を突き合わせながら、兄弟や親子以上に歳の離れた益荒男たちが歌を歌い、絆を深める時間にする。そこに年代間の上下関係はなく、あくまでフラットな関係です。共通しているのは「グリークラブをこよなく愛している」こと。このような活動を続けていくうちに、現役とOBの距離はみるみる縮まり、伝統あるグリークラブの人の輪が、強く大きいものになっていきました。大変ありがたいことに、現役のグリークラブを知識面や金銭面でご支援いただく規模がどんどん大きくなってきたのです。現役の立場として私も毎回の議論や素敵な先輩方との懇親がとても楽しみて大好きです。同じ大学、そして同じ音楽団体のバックグラウンドをどれ

だけ年が離れていても共有できることは本当に幸せです。私だけでなく現役一同がそのように感じています。

全国のOBが現役を 応援してくれる体制へ

グリークラブOBによる現役支援の輪は全国に広がっています。OB会には全国に7つの支部（北海道・東北・北陸・東海・近畿・中四国・九州）があり、各支部を中心としながら、毎年多くの金銭的・ご支援を全国の先輩方からいただいております。OB同士のつながりの中で、現役とOBの密な関わりはニュースが広がり、次々に東京以外の地域のOBからも応援いただけるようになりました。我々学生は全国からの応援の声に誠心誠意向き合い、ご支援の意味をしっかりと受け止め、グリークラブの未来のために大切にさせていただいております。

現在のグリークラブ 〜黄金期再到来の予感〜

さて、以上のようなOB会の「現役支援第一主義」という思いに支えられている我々グリークラブ現役の現在をお伝えしたいと思います。現役とOB会の関係

が変わりはじめた約10年前は20名に満たない団員数でしたが、2018年4月現在63名で活動を行っています。冒頭、「大学同声合唱冬の時代」ということに触れましたが、全国の大学の男声合唱団が軒並み人数を減らしています。そのような中で、明治大学グリークラブが団体として安定した活動基盤を確保できていて、団体の魅力がしっかり新入生に伝わり、大学合唱の門を叩いてくれる新入生が多くなったという現状は、10年前の厳しい時代を現役とOB会が二人三脚で力を合わせて乗り越えようとした努力の賜物なのではないでしょうか。

今のグリークラブはOB会の力強い後押しで大きな上昇気流に乗っています。これからさらに人数を増やし、力強く、そして繊細で瑞々しい演奏を武器に、これからも明治大学の芸術・音楽シーンをリードし、盛り上げてまいります。また、グリークラブ主催の演奏会にとどまらず、校友会や父母会などの関連行事で歌わせていただく機会も多くなりました。校友の皆様やご父母の皆様と、音楽を共有できる日が来ることをグリークラブの現役、そしてOB会一同とても楽しみにしております。



川崎大師山門前にて。全国どこへでも伺います！



ロールプレイングの成果を生かして新入生を勧誘しています



全国のOBと「顔が見える」交流を行っています。東海支部に伺った際の1枚（真ん中に筆者）



現役とOBによる「新入生勧誘のためのロールプレイング」の様子（代議員会にて）